

東京都におけるがん対策の今後の方向性について

1 現状と今後の方向性

現状

国・都ともに、AYA世代への具体的ながん対策は未実施

これまでのがん対策

- 小児がん対策
- 拠点病院の成人診療科における診療の充実等

AYA世代 (15歳～39歳)

- ライフステージに応じた多様なニーズ
- 小児と成人診療科の過渡期の年齢を含むため、診療提供のあり方について検討が必要
- ⇒ AYA世代特有の課題に応じた具体的な対策がとられていない

都内のAYA世代の院内がん登録数

<登録数(年齢・男女別)>

年齢	男性	女性
15歳～19歳	100	100
20歳～24歳	150	150
25歳～29歳	250	350
30歳～34歳	350	850
35歳～39歳	500	1500

<がん種別の傾向>

- 男女ともに、25歳未満では、白血病やリンパ腫を含む希少がんが多いが、25歳以上では女性の子宮頸がん、乳がんを中心に、一般的ながん種が多い。
- (詳細は参考資料6-2)

院内がん登録2015年全国集計 (国立がん研究センター) より

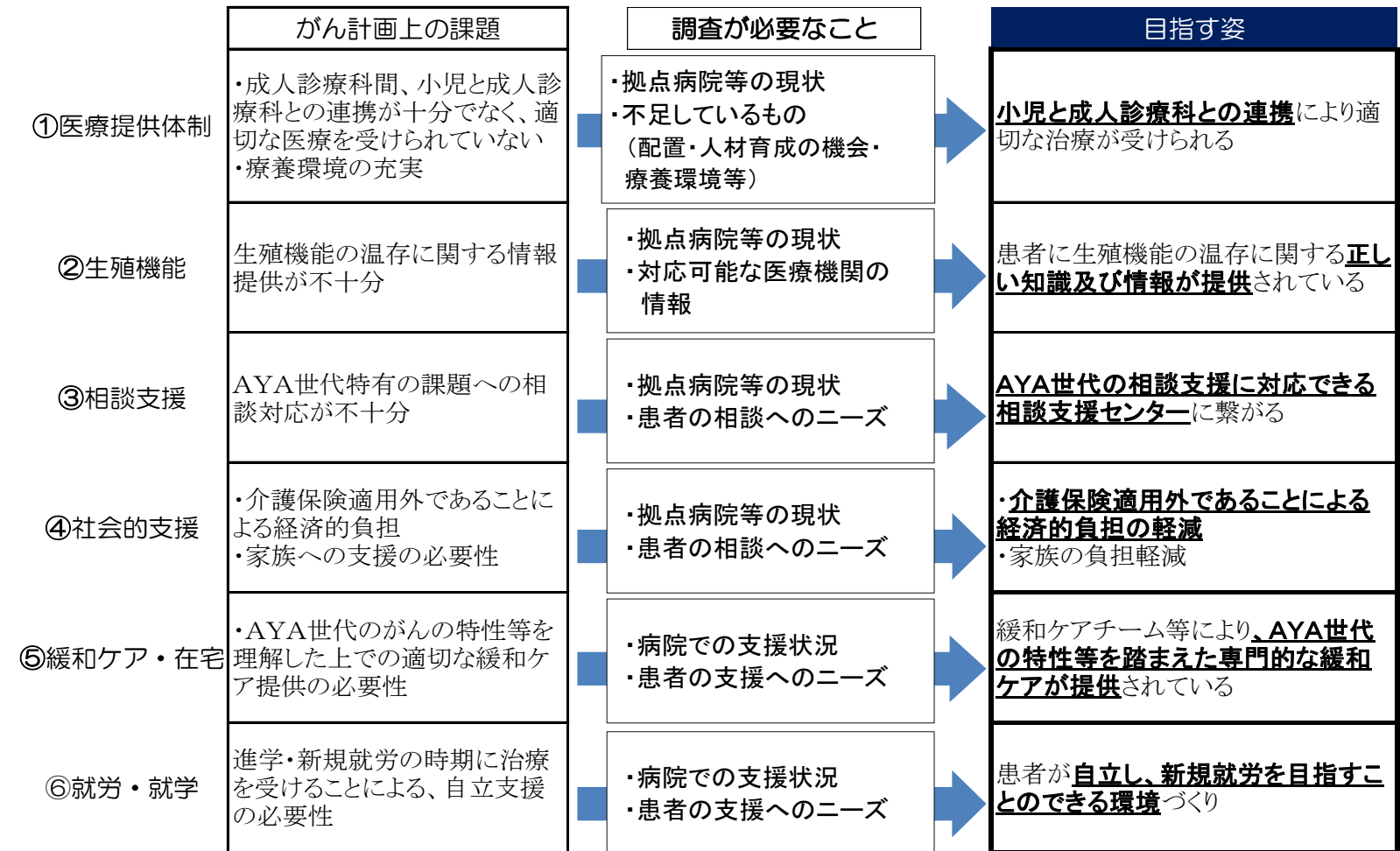
今後の方向性

今年度: 調査実施

都の実態を把握した上で、都としてAYA世代のがん対策を推進

2 主な具体的課題等について

○成人がんと異なる下記のような課題、特徴がある。



3 AYA世代の年齢ごとの課題イメージ

	前期	後期
医療	AYA世代発症 ・院内、小児がん拠点等の連携	小児がん経験者 (二次がん) ・長期フォローアップ ・移行医療 ・患者への普及啓発
相談支援・その他	○成人・小児がん拠点病院等を中心とした相談支援 ○世代ごとの相談ニーズへの対応 <世代ごとの課題・社会的問題等> <ul style="list-style-type: none"> 生殖機能の温存 就学 → 新規就労 → 就労継続 療養環境 家族 (介護者) 介護保険等対象外 (経済的負担) 	

AYA世代という年齢幅のある世代について、今後の方向性を検討する上で、がん種・経済的自立といった視点に留意する必要がある。